

大分県豊後大野市 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

豊後大野市では、導入した学習用タブレットを「ゴン（GON）ちゃん」と名付け、児童生徒により親しみをもって利用するように指導している。このゴン（GON）ちゃんとは、豊後大野市の進める「ヘブタゴン教育」からゴンをとり、次の単語を組み合わせ、GON「つながった気のきいた小道具」という意味を持たせている。

G = Gadget（ガジェット）・・・気のきいた小道具

O = Of

N = Nexus（ネクサス）・・・連結（つながり）

このGONちゃん（タブレット端末）を日常的な文具として活用しながら、今後、児童生徒が学ぶ意義や楽しさ、学びと社会の繋がりの実感を持ち、自分の未来を自分自身でつくっていけるよう、様々な施策を、豊後大野市の全学校で計画的に推進していく。

2. GIGA第1期の総括

令和2年9月に1人1台タブレットを導入し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校、学級閉鎖時の学習保障、探求的な学習における資料の作成、自身の意見形成・発表等に活用してきた。

具体的には、小学校では理科の電気や多角形でのプログラミング教育、中学校では技術科での「情報の技術」、またプレゼンテーションの作成・発表、静止画や動画の撮影及び視聴、インターネットコンテンツを活用した調べ学習、大型提示装置の活用などである。

一方で、他自治体との利用サービスの相違、教員間の利用頻度の差、運用面での業務増加等、ハード、ソフト両面での課題が発生しており、利活用を進めるにあたり、解決を図る必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備したことによって、今後、単なるICT機器を活用した授業の推進ではなく、児童生徒一人ひとりの資質・能力をより効果的に育成することのできる新たな学び方が考えられる。

例えば、児童生徒一人ひとりが自分の考えを端末でまとめるとともに、考えを学級全体で可視化して、意見を共有しながら学習を進めたり、一人ひとりの学習進捗状況に沿って、デジタル教材を活用しながら、個々の課題に合わせて学びを深めたりすることができるようになった。また、教員側では、教

員用端末により、児童生徒一人ひとりの学習進捗状況を把握し、授業の進度を調整することや個別のアドバイスを行うことができるようになった。

今後は、これまでの授業では考えられなかった新たな端末活用の方法を教員に周知、指導していくとともに、各学校であらゆる場面での授業実践を行いながら、その効果的な取組について市内で共有していくことが必要であり、個別の問題により学校に登校ができない児童生徒（外国語の問題や不登校）に対して、I C Tを活用して、個別の配慮ができるよう検討していく。